

国産農産物の革新的低コスト実現プロジェクト

【468（1,131）百万円】

対策のポイント

米粉用米や超多収飼料用米等の加工適性に優れ、収量性の高い品種の育成と土地利用型農業や施設園芸における低コスト生産技術の開発を行います。

<背景/課題>

- ・食料・農業・農村基本計画の目標である食料自給率50%を達成するためには、外国産への依存度の高い加工原料用農産物等について、国産への需要代替を図ることが不可欠です。
- ・このためには、加工適性に優れ、収量性の高い品種の育成と低コストな生産技術の開発を一体的に実施し、実需者ニーズに応じた国産農産物の革新的な低コスト・省力生産体系を構築することが必要です。

政策目標

- 土地利用型農業における労働コストを半減するとともに、輸入品の加工需要を10万トン程度代替
- 施設園芸の農薬使用量30%、電照栽培の電力消費量70%削減
- 飼料用米の生産コストを40%削減

<主な内容>

1. 土地利用型農業における高加工適性品種の育成と低コスト生産技術の開発
米粉用品種、パン・中華めん用小麦品種等、用途に応じた高い加工適性を有する品種を育成するとともに、土地利用型農業における自動農作業体系化技術等を開発します。
2. 植物工場等園芸技術の省エネ・省力・低コスト化
生物の光応答メカニズムの解明による省エネ・コスト削減技術、施設園芸における高度環境制御技術、作業軽労化のための農業用アシストスーツを開発します。
3. 超多収飼料用米の育成と低コスト飼料生産技術の開発
超多収飼料用米・飼料作物品種、稲・麦二毛作体系を基軸とした効率的飼料生産技術、飼料用米多給を中心とした自給飼料利用技術を開発します。

（補助率：定額）
（事業実施主体：民間団体等）

（お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究統括官（食料戦略、除染）
（03-6744-2214（直））

国産農産物の革新的低コスト実現プロジェクト

背景

我が国の食料自給率は39%と低い水準にある。国産農産物のシェア拡大には、用途に応じた適性品種を育成するとともに革新的な低コスト・省力生産技術を開発し、生産コストの大幅な削減と耕地・施設の高度利用による生産の効率化を推進する必要がある

土地利用型農業における高加工適性品種の育成と低コスト生産技術の開発



トラクター、コンバインのロボット化

- ・国産品シェアの拡大に必要な高加工適性品種の育成
- ・無人トラクター等による農業自動化

食料・農業・農村基本計画の目標、食料自給率50%、耕地利用率108%に貢献

- ・米粉適性品種、パン・中華めん用小麦等の品種育成
- ・農業自動化システムによる抜本的省力体系を構築する

農業自動化システムによる低コスト・省力体系

水田の高度利用による生産拡大 アシストスーツによる軽労化

超多収飼料用米の育成と低コスト飼料生産技術の開発



- ・飼料米・飼料作物の品種育成
- ・自給飼料利用技術の開発

食料・農業・農村基本計画の目標、飼料自給率38%に貢献

- ・超多収飼料用品種育成、稲麦二毛作体系による生産拡大
- ・飼料米多給技術を開発し、自給飼料の利用拡大に貢献する

植物工場等園芸技術の省エネ・省力・低コスト化



- ・園芸作物生産の効率化
- ・LED照明を利用した高度環境制御技術の開発
- ・農業用アシストスーツによる軽労化

食料・農業・農村基本計画の生産数量目標、野菜1308万tに貢献

- ・施設園芸における高度環境制御技術を開発し、生産効率化に貢献する

生産コストの大幅削減・省力化

耕地・施設の高度利用による生産の効率化

国産農産物シェア拡大

